

## 女と男、違うから深く愛し合える 柴門ふみ

私はマンガ家という職業柄もありますが、とてもよく人を「観察」し、なぜこの人がこう言って、こういう行動に出たかを「分析」します。それを繰り返すことで、この人がこう言ったら、それはこういう考え方で次の行動はこうなる、という「読み」ができるようになります。もちろん、読みがはずれることも多いですけど、漫然としておつき合いしているより、その人とのかかわりが深くなったり、また、無用なぶつかり合いや誤解を避けることもできます。

その結果が、私のマンガの中で主人公たちの言動になり、読者の共感を得ているのかもしれない。

マンガの中で私の描く言動の裏にある男の考え方を追いかけた時、初めて「ああ、こういう考え方のプロセスであるセリフが出てくるんだ」と、それこそ目からウロコが落ちるように、自分つまり女の考え方と違った男のものの見方、考え方があることに驚くと同時に、納得をするんだと思います。

私だって、捨てるに捨てられない洋服がたまって、もう大変。それでもシーズンごとについて買ってしまうものだから、夫から「いいかげんにしろ」とお目玉を食らってばかり。ついに我が家はワードローブのためにリフォームを迫られるところまできています。

旅にしても、買い物にしても、男の求める基本は新しいもの、未知なもの＝自分を「刺激」するもの。一方、女の望むものは、精神的にも肉体的にも気持ちよさや満足＝自分を心地よくしてくれる「快樂」と言えます。

私はどちらかといえば、無口な男よりも少々おしゃべりな男のほうが好きなんです。お互いに会話のキャッチボールで盛り上がっていく。無口な人だと、何をしゃべろうか考えて気を遣っているうちに疲れて、もういいや、になってしまいます。

それはそれで人の好みですから、おしゃべりな男がおしゃべりな女を好きとも限らないし、無口な男がおしゃべりな女を好きだったりします。でも、生物学的に自分の子孫を残すべく運命づけられている男が、そのための行動として常に女をくどくなら、きっと口のうまい男のほうが男という種の中では優性なのかもしれません。

男のことはいざ知らず、女はおしゃべり、というか口のうまい男にとっても弱いと思います。今までは女の立場が受け身であったこともあるので、これから先はどうなるか分かりませんが、だいたい女はくどく男に弱い。もっとはっきり言えば、自分をくどく男を好きになります。その人と付き合わないまでも、その気にさせられる確率は非常に高い。

女の淋しいという気持ちの基本は、だいたいしゃべる相手がいない、の一言に尽きます。

しゃべりたいという衝動が強い。相槌を打ってもらいたい、同意して欲しい。

女の嫉妬がけっこの的を射た嫉妬だとすれば、男の嫉妬はちょっと的はずれでかわいいものかもしれません。たとえば「そんな胸のあいた服を着るんじゃない（他の男が見るじゃないか）」とか「ミニスカートで歩くんじゃない」とか。それから「あの男と口をきくんじゃない（だいたい相手は彼が嫌いな男なんですけど）」「あの男に気をつける（これも自分が嫌いな男に対してです）」。

女と違って、自分の友達の誰かに会わせたら彼女をとられてしまうかもしれないといった、具体的な嫉妬はしません。男の場合、嫉妬というより、独占欲に近いのでしよう。キレイすぎる恋人や奥さんが心配で、街を歩くな、家にいろと言ってみたり、

お勤めに出るのは絶対許さん、と言うご主人の話はよく聞きます。

それからこれはずっと私が不思議に思っていたことですが、三角関係になったとして、女は彼ではなく、必ずどんなに頭のいい女でも、相手の女を憎むんです。「彼は悪くない、彼をたぶらかしたあの女が悪いのよ」って。

冷静に考えれば、新しい女をつくったのは彼、あるいは彼にそうさせてしまった自分が悪いんです。だから責めるべき相手は彼なんです。もし、自分のいたるなさが新しい女の存在につながったなら、それを彼と話し合っ、修復するなら修復すべきなんです。それなのに、絶対に女の怒りの矛先は彼には向きません。だから、嫌がらせは相手の女へ集中します。彼には何も言わず相手の女に直談判、「彼から手を引いてちょうだい」とはっきり告げる女もいれば、自分と彼の幸せそうな写真を見せつけたり。ちょっと頭の悪い女なら、彼にライバルの悪口を言って、自分の株を下げることになるのです。

だいたい女はひとりの男性に深く愛されたいと願うものですが、男の多くは、たくさんの女をそれぞれへの愛の深さは別として、自分のまわりに常時はべらせたいと願う。

よく言われることですし、ユーミンの歌にもありますが、男はとにかく最初の男になりたがり、女は最後の女でありたいと願うというのが男と女の特別な位置づけに対する定説のようです。

男の場合、競争意識が激しいから、とにかく一番にこだわるのかもしれませんが。あるいは男が何も知らない女を自分の好みに育て上げるのが理想と考えていることが、『源氏物語』の時代から変わっていない証拠かもしれません。

また、男には昔の彼女をいつまでも心の引き出しに大事にしまっているようなところがあって、何かの折にその気持ちが再燃したり、彼女が困っているなら助けなければ、のようなナイトの気持ちが働くようです。だから女に対しても、「最初の男」なら彼女がずっと自分のことを他の誰よりも特別な位置づけで心の中にしまっておいてくれるという幻想を抱いているかもしれません。

実際には、女は「別れたら次の人」。今好きな人が一番になってしまうものだ、と思いますけれど。

#### 人間関係の

基本として、「こんにちは」でも「さようなら」でも「あなたにお会いできてよかった、うれしい」って気持ちが伝わってくるような挨拶が自然に出るようになればいいですね。ご近所の奥様で、それこそ引き込まれるぐらい素敵で笑顔でご挨拶をしてくださる方がいらっしゃるんです。もう私、その笑顔を見たら、「はい、何でもいたします」って、ついていきそうなくらいにとびきり素敵なのです。

恋愛は男にとって兼業と言いましたが、不倫もそうです。仕事、家庭、婚外恋愛（不倫のことですね）どれも男にとって独立した世界で、彼にとって必要だと思うから成り立つんです。

女の場合、そんなに器用なことはいけません。性格的にも、もちろん金銭的にも難しいと思います。ある意味のめり込むのが女の特性と言えるからかもしれません。

私は「家庭は義務と責任」だと思っています。そしてそれは恋愛とは別のものだとも。だから「義務と責任」をきちんと果たしている人に限って、なおかつ絶対ばれないなら不倫をしてもいいんじゃないかとは思っています。ただ、ばれないようにするのは難しい。男が適当に遊ぶなら、ばれないかもしれないけれど（女は鋭いけど、適さんになった瞬間にうちの人に限って、になったり、女の勘が鈍るんですね）、真剣な恋愛を

家庭外でしたら、まず絶対にばれます。サラリーマンだったらとくに。

・・・

それに男がいくらがんばってばれないようにしたって、つき合う女が物分かりが悪かったらすぐにばれてしまいますね。男の努力と女のがまん、それがずっと続けられれば、ばれないのかもしれないけれど、そんな可能性はものすごく低いものだと思います。

#### 女の三十五歳から四

十五歳は性欲がとっても強くなるような気がします。結婚している女の不倫率が一番高いのは三十代、四十代。ご主人が働き盛りで忙しく、家庭を顧みるひまがないから……という分析もできますが、私はそうじゃないんじゃないかとひそかに思っています。三十五歳から四十五歳というのは生理的に見て女にとって最後の妊娠のチャンス。だから神様がこの年代の女に、「もう最後だから、とにかくがんばるんだ」ってけしかけているんじゃないかと思うんです。

恋愛って、声とか、匂いと

か、体温とか極めて動物的なものに左右される、というか支配されているんじゃないかなあと思います。

恋愛ではなく、結婚となると多少価値観の一致

も必要かなとは思いますが。うちの場合、私と旦那はまったく価値観が違います。それでも、人間的には大好きだし、尊敬しています。人間的にこの人が好きだということと価値観の一致は別物です。

自分はこの子をいいと思っているが、同じように他の男もいいと思うだろう、自分は今この女を確保したと思っているが、もしかしたら自分が油断しているすきに略奪されるかもしれないという不安を持たせる女です。

もちろん自分のことを好きだということは分かっている。でも早く決めないといけないという気持ちにさせる。絶対この女は自分のもとにいたいと思ったら、男は安心して遊びますもの。いざとなれば、コイツがいるみたいな気持ちです。

よく聞く話ですが「他の人と結婚する」とか「お見合いをする」と言った時にプロポーズされたといいます。でも、この一言は女にとって大博打。相手の性格を見て言ったとしても、結果は分かりません。それなら安全策をとってじっと待っている女になればいいかという、それもまたそれで、後からきた女にひゅっとかっさらわれちゃうかもしれない。

男と女は本当に博打だから。

今回、私なりに、今までしてきた男の観察と分析をもとに、恋愛論という形で女と男の考え方、感じ方の違いをまとめてみました。私は女なので、完全に男の気持ちや考えを代弁できたとは思いませんが、それでも一方的な女の意見に終始してはいないとひそかに自負しています。

お互いの考え方の違い、感じ方の違いが分かれば、もっと相手を思いやり、もっとお互いに深く親密な関係になれる。そうして楽しい充実した日々を送れるはず。それは恋愛論を超えていつか「人間愛」論に通じると言ったら言いすぎでしょうか。

だから、男の人の気持ちが分からないと悩んでしまっている女たちだけでなく、逆に女ってわからないとため息をついてしまっているような男の人にも読んでもらえればいいなあ、と思っています。そして少しでも女の気持ちを知って、素敵な恋愛関係をつくってくればこんなにうれしいことはないと思います。